



1・twitterって何？

世間では、twitter、twitter、と言っているけれど、いったいなんなのかって、人はまだまだ多いですね。ネット上でいろいろな人達と、今を共有できるツール。これが、twitterです。メール、チャット、web、blog、他のSNSと何が違うの?と思いますよね。いままで、ネットツールのつながりは、人つながりがメインでしたが、twitterは、人の発信するコンテンツがキーになっている点です。人の発信するコンテンツがキーっていても、blogでもwebでもそうですよね。ところが、twitterは、今、その瞬間、瞬間、その人の持っているものを感じていることを140文字で表現するってことなんです。だから、たとえば、blogやwebをブックマークしておいて、さあ、読んで見るといった形とは違います。いろいろな人が、どんどん情報を発信してくれるので、その中で、自分が気になったものやことについて、情報を見ていけばいいのです。情報化社会から今は、情報過多社会になっています。あふれる情報から、いかにその情報が正しいか、信頼性があるのかといったことを見抜く力が必要ですよね。ありとあらゆる情報が、ネットにはあり、雑誌にもものっています。ネットには、巨大な掲示板もあります。その中に、本当かなといったことも数多く含まれています。twitterも同じです。中には、悪意に満ちた情報もあるのではないのでしょうか。ところが、従来の掲示板と異なり、誰が発言したかといった履歴を追うことができます。だから、ある人の発言をおいかけると、この人がどんなことに興味関心をもち、どんな発言をしたか、その信憑性はといったことがわかります。いつもいい加減な発言をしていると、やはりその人からは皆が離れていきます。

これは、不思議なもので、読んでいくうちに、発信者のもつ雰囲気であったり、信頼性であったりが見えてくるので不思議です。そんなこといっても、どこの誰ともわからない人の発言を信じてることができるかなあって方は多いです。そんなときは、こんな質問をします。「最近、メーカーの広告だけで決めて、なにか買った経験はありますか?」と。

たとえば、価格ドットコム、アマゾン、どこの誰ともわからない人のコメント、レビューを参考にしたことはありませんか。今は、もうメーカーの広告だけで買う時代は終わっています。もちろん、商品名やイメージを伝えてはくれますが、自分がお金を払ってそれだけの価値、効果があるかどうか。行動を移す前に、まずは、検索されるわけです。ランチにいきたいけど、どこか近くにおいしい店がないか。無名の誰かが書いて、星印が4つついていたら行ってみたいくなりませんか。今夜宿泊する宿はどうか、入学したい学校の評判はどうか、映画は、音楽は、本は、ファッションは、リフォーム業者は。かつては書評家やその道のプロでしか表現する場が与えられていなかったことが、現在では、誰でも手軽に情報発信できるようになったのです。更に、無名の誰かでも、自分と感性が合致していれば、有名書評家よりも、より自分に合ったものを見つけ出すことができます。

その最もシンプルなものが、twitterなのです。そして、世の中の出来事をほぼ、検索することができる時代になってきています。

twitterは、140文字しか入力できません。参考先にリンクURLを入れるとそれでいっぱいになってしまうので、URLを短縮できるサービスを利用します。

この140文字は絶妙です。本当に伝えたいことを精選していかなければならないし、句読点、特に、読点の使い方はポイントです。文字数を稼ぐために、句点は、抜くこともあります。ビジ

ネスにおいて、短く、わかりやすく伝えるって大事なセンスですよ。そんなことも、twitterでは、必要とされてきます。面白い価値ある情報を発信してくれる人に皆が皆なれるわけではありません。では、それで使わないかいうとそうではなく、情報収集ツールとして使えばいいのです。

パソコンやインターネットが日本に普及し始めた頃、使用していた人達はわずかでしたが、この数年間で、使用できる環境、ツールが多様化したこともありますが、使わない人はどうですか?確かに、高齢者、幼児はつかいませんが。ビジネス社会現役の人が、使わないことはないですよ。それと同じです。twitterを使うか、使わないかの選択ではなく、使わなければならないツールであり、判断を下す前に一度は、その世界を覗いてみる必要があるツールなのです。

2・twitter基礎の基礎

それでもまだ、twitterってなんなのか、なにができるのかがよくわからない方のために、基礎中の基礎を説明します。

twitterは、ネット上のあなたの本棚です。本棚は、自分の家にも、職場にもあると思いますが、本棚という道具の呼び方は同じでも、その中身がまったく同じ本棚というものはありませんよね。

ある時には夢中になって読んだ本(作家)もあるけれど、今は、まったく読まなくなってしまったもの、週刊誌もあれば、月刊誌、旬刊のものあれば、古典、恋愛小説、新書、ビジネス書とありとあるゆるものがあると思いますが、共通していることは、何かの関心、興味、必要に応じて、自分が、そろえたということですよね。誰かが(見知らぬ作家)発信した文章を自分の感性にしたがってそろえたのが本棚なんです。だから、世の中に、まったく同じ冊数、同じ種類の本が揃っている本棚は、まず、世界中探してもありません。もちろん、中には期待はずれだったものもある場合も。

twitterは140文字と短いのですが、続けて書いてくる人もいます。ですから連載になるわけですね。

自分が興味ある関心ある本を探すには、本屋さんに行く、ネットで探すといったことになりませんが、twitterは、これをネット上だけでおこなっていくわけです。日本で大きなソーシャルネットワークサービスといえば、mixiをあげることができます。今は、誰でも登録できるようになりましたが、最初は、招待制でしたよね。誰か、自分の知人が参加していないと、参加できないといった敷居の高さが、関心を高めたことは事実です。入会できるといったプレミアム感ともいうのでしょうか。しかし、今では、この部分が逆の意味を持ち始めています。知り合いが書き込んだものに対して反応しなければならない。つまり、知人が書いた日記を読んだか、読まないかみたいなことになって、自分にとってはあまり興味、関心ないことも読まなくてとはといった強迫観念的な現象がおきてしまったのです。

知人から、興味、関心がない分野の本を「絶対に面白いから読んでっ」と渡されても、なかなか触手が伸びないのといっしょですよ。本に限らずにね。ところが、最初にも書きましたが、自分と同じ興味、関心をもっている人であれば、どこの誰とも知らない人が書いたものも参考になるわけですよ。

まず、twitterに登録したら何をするかということですが、これは、フォローを開始します。自分からのメッセージも大事ですが、自分の興味関心ある人のtwitterを探して、フォローします。フォローするというのは、誰かの発言を自分が読むということになります。

では、誰がtwitter使っているのか、情報発信しているのかは、サイトで調べることもできますし、検索エンジンで、好きな作家やあこがれているビジネスマンなど名前を入れて &検索などかければ、すぐにでてきます。もちろん、企業やメディアも。自分の関連企業、ライバル企業の情報発信もわかるわけです。趣味で探す方法もあります。

手軽なところは、朝日新聞、毎日新聞などのメディア、JRなどの交通情報、お気に入りの店、好きなタレント、ビジネスマン、作家などからフォローしてみましょ。つまり、本を購入するのと同じです。100人の人をフォローするとこの人達の発言が、自分の画面に表示されます。これ

をタイムラインTLといいます。フォローすることによって、本棚に本が増え、内容がどんどん書き込まれていくと思ってください。

あなたが、フォローすると、相手には、あなたが、情報読み始めましたよという連絡がいきます。しかし、最初読み始めて、面白くなければ、フォローをやめればいいのです。

これが、twitterの特色のひとつでもあります。ブログやwebは、勝手に読み見ますが、読まれている側は、誰が読んでいるかがわかりにくいですよ。でも、もし、期待してフォロー始めた人の発信が、おもしろくなかったら。これは、気軽に返品ができます。フォローをやめればいいのです。フォローをやめたことは、相手にはわかりません。正確にいうと、おいかければわかるのですが、読者をやめられたからといって、落ち込むこともありません。これが、最初からリアルでつながっている人だと面倒ですよ。ただ、どうしても、関係上、フォローを外せない場合、そのままにしておいてもいいわけ。タイムラインは、どんどん更新されますので。もし、相手から、読んでくれた?なんて質問がきても、別にわるびれることなく、見逃したよですんできます。どうしても伝えたいことであれば、メールなり、twitterのダイレクトメールを使えばすむことですからね。

では、自分の情報は誰が読んでくれるのでしょうか。基本、自分がフォローした人は、80%の確率で、フォローしてくれます。もしくは、情報の内容を見てからフォローしますなんて場合もありますが。著名人は2種類に分かれています。フォローしてくれる人、自分の情報発信中心で、フォローは特定の人にしかしていない人。30万人からフォローされて、全員をフォローしたらそれは大変ですよ。タイムライン(フォローした人達の書込みが)が、それこそ秒速でながれてしまいますから。

twitterには、検索機能があります。そこで、気になるワードを入れて検索することにより、そのことについて書いている人を見つけることができます。僕の場合、写真、海、波乗りといったことについて書き込んでいる人達をみつけて、フォローしますし、住んでいる地域、神奈川、茅ヶ崎といったキーワードも入れています。

アカウントを取ったらまずは、フォローして、自分の興味、関心あることについての書き込みを読んで見ましょう。そして、もし、なにか引っかかることがあれば、その人に反応してみましよう。自分の書き込みは、相手がフォローしてくれていないと読まれません。相手のアカウントに@マークをつけて、書き込めば、相手のタイムラインに書き込みはされます。読んでくれるかどうかは別として。

個人のメールアドレスを知るのは、なかなか難しいですが、ソフトバンク孫さん、元首相の鳩山さんに意見を言いたい場合は、相手のアカウントを調べて@マークを頭に付けて、発言します。たとえば、僕のアカウントはwakahoですから、@wakahoとして、メッセージをいれてくれれば、僕のタイムライン(画面)にあなたの書込みが表示される仕組みです。

著名な人が、誰をフォローしてるのかといったことも見るすることができます。そうしたら、その人達をフォローすることも可能ですよね。

twitterの基礎中の基礎は、フォロー(相手の気所読む)するという作業からなんです。そして、フォローした人達の書いたものが、ひとまとめにされる画面をタイムラインTLといいます。この二つをまずはしっかり覚えてください。自分の情報発信はそこからでかまいません。これで、あなた独自のネット上のtwitter本棚ができあがっていくのです。

読みたくなければ、外してもいいし、放置してもいいし、実際の本棚に仕組みはよく煮えていますよね。

3・twitterって誰が使ってるの

これは、いろいろな統計がネット上にでていますが、自分が使用している体感度にあわせて説明したいと思います。

今現在、日本国内で最大のSNS(ソーシャルネットワークサービス 社会的なつながり)は、mixi(ミクシィ)で、2000万人突破が報じられたのが、2010年4月。

対してtwitterは、473万人(2010年3月)とか、700万人とか言われていますが、実際の数値の発表は、twitter社からはでていないのが実情です。ですが、473万と発表された数値は、1年前の実に24倍の数値と言われています。たった、473万にしか使っていないと見るのか、それとも、1年間で24倍の利用者数になったと捉えるのかということです。ここでは、ビジネスに使うということを前提に話しています。最初からマーケット規模の大きなものは、そう転がってはいないですよ。最初は、誰もが、あんこと、あんな高いものと思っていたものが、いつのまにか値下がりして、手に入れやすくなり、巨大なマーケットに成長するなんて、ことは今まで、それこそ数限りなく存在していますよね。そして、twitterを始めるのに莫大な投資が必要かと考えると、まず、始めることに関して、大きな投資は不要です。投資するとしたら、自分の時間コストでしょうか。

経営をされている皆さんなら、当然、時間コスト、費用コスト、費用にみあった効果といったことを視点にされると思います。じゃ、今すぐに、twitterから利益が出せるのかということ、業種業態によってというところが現実的です。自分たちの業種のターゲットとなる層の人達が使っているのかどうかといったことは、大きな関心ごとですよ。

実際に使用している自分の経験からすると、30代、40代の男性が最も多いゾーンだと感じています。男女比に関しては、7対3で男性が多い感じですが、もう少し男性比率が高いかもしれません。年齢層に関しては、仮説的ですがひとつ思い当たることがあります。それは、使用するツールに関するのです。twitterは、パソコンからもアクセスできますが、アップル社から発売のiPhoneと非常に相性のいいツールなんです。ところが、iPhoneを購入できる層は、やはりある程度経済的に自活している人となります。なぜなら、2台のケータイ(iPhoneは、ケータイではありませんが)を契約するようなものだからです。当然、高校生や大学生にとっては、なかなか手の出しにくいツールになってしまっています。20代前半も、まだ、学生であったり、社会人になって、数年のためまだなかなか

iPhoneを購入するには、至らないのでしょうか。20代後半以上のサラリーマンの男性といったところが、利用者像として浮かんできます。中には、50代後半のかたもいます。それは、フォローしたことによって知りえたことです。

最近では、日に日に、女性の利用者也増えてきているようですが、やはり、10代の利用者はまだまだみえてきていません。それは、ケータイでの利用に若干、ストレスがあるからではないでしょうか。モバイルツイッターというサイトで、ケータイでもtwitterが使える状態にはありますが。それと、やはりリアルのつながりを重視する10代は、従来からのSNSであるグリーやモバゲーなどを利用し、大学生にいたっては、情報収集となるmixiなどが、使いやすいのもtwitter利用者層とのちがいとなっていることが想定されます。それと、この20代前半まではの世代は、完璧なケータイ世代です。スマートフォンとケータイは、やはり違うのです。ケータイにはケータイ

文化があります。仲間から一人離れて、スマートフォンにするにはかなりの勇気のいることではないでしょうか。

では、なぜ、20代後半からのサラリーマンに、twitter使用者が、多くみられるのでしょうか。それは、現実の打破であったり、通常はコンタクトできないような人達と気軽にコンタクト可能な状態にあるからではないかと考えています。有名企業の代表者、政治家、作家、評論家、クリエイターなどがその代表です。そして、もうひとつは、自分と方向性のあう無名の人達との手軽なコミュニケーションツールであるということ。twitter基礎で書きましたが、フォローするのもアンフォロー(リムーブ)するのもとても手軽にできるツールだからです。もし、フォローしあって、お互い気が合えば、ダイレクトメールで一对一でやりとりもできますし、発展して実際に会いませんかといったことに発展します。実際、私も、何度かオフカに参加していますし、凄く話が合いそうだなと思った相手とは、直接会いに行ったりしています。これが、不思議とブログやmixiでは、なかったことです。というのも、iPhoneは、リアルタイムな情報を発信するものです、ですから、ものすごく近くでお互いが発信してる場合、ちよつと会いませんかといった具合になりますが、ハンドルネームであっても、登録制なので、所在がしっかりしている面があります。そして、当然、その人の発言を何度も目にしているので、どんな人柄とか、どんな考え方とかおおよその把握ができますが、ブログなどでは、そこまで読み込んでいることという、案外読んでいなかったりします。今、誰かのブログを定期的に読んでいますか。僕は自分でブログをもち、情報発信していますが、定期的に誰かのブログをよんでいることはなく、必要に応じて、検索結果でブログにいきあたる率が高くなっています。知人のブログは、登録してあり、更新情報が届くようになっていきますので、見に行っていますが。

実際の例でいいますと、昨年12月、茅ヶ崎エリアでtwitterをしているメンバーとその知人などが集まって忘年会を実施しました。そこには、約40人があつまりました。そのときの使用ツールの8割はiPhone、一番若いひとが30代、男性率9割でした。そこに集まったのは、ほぼ初めて会った人達ばかりでした。僕もその中にまぜてもらったのですが、フォローしていた人達が約半数でしたので、あーあのコメント書いている人ですねみたいな紹介で、あつというま打ち解けることができました。この会は、特に、会員制とか、会費など取ることもなく自然体で今もつながっています。

いろいろなイベントが開催されていますが、非常にゆるいつながりで来ていますが、中にはそこから仕事が派生したといった話もできています。

6人の男性で会ったときは、5人がiPhoneで、一人は、海外から一時帰国したときの方でした。そこでは、その国の様子、経済の話も聞くことができました。そして、不思議というのか、当然というのか、IT関連の職業の人が多いのも特色ではないでしょうか。また、ここで知り合った人が、開催している勉強会やセミナーにも参加することができたりと、人脈があつという間にひろがったということも大きな特色です。異業種交流会&セミナーで大勢の人と名刺を交わしてもそれっきりとかありますよね。Twitterの便利なところは、まず、つながりありきで話始めるので、自己紹介とかが短くてすむこと、別れてた直後にすぐにお礼の連絡を大勢に一括でできる点にあります。

こんな利用者層がいるtwitterを経営者である人が使わずにすむはずがないと思います。先ほども書きましたが、海外の人もあります。もちろん直接会ったことはありませんが、海外からの情報も気軽に入手することができます。個人レベルでこれくらいのことのできるわけですから、きちんと考えた上で情報発信したらこれは面白いことになると思いませんか。

20代以上の男性が利用し、女性利用の波及、参加者数の増加、今後大きな発展が見込めるツールであることは、明白ですよ。Twitter単独の利用でなく、web、ブログとの連携も当たり前になってきています。Twitterを使う上で、いまのところ大きな制限はありません。タイムライン上に広告をだしてはいけないといったことが、twitter社から出ています。無料のtwitterクライアントを利用すると自動的に先頭に広告配信されるものがあります。これを禁止するといったことが5月にtwitter社からアナウンスされました。これは、逆に考えると、twitterを利用したビジネスの可能性あることを示唆しているのではないのでしょうか。

4・twitterを使うと何がおきるのか

まず、何がおきるかといったことを話す前に、どんな場面で利用しているかを見ていきましょう。

TLを見ていて気づくことは、隙間の時間に使っている人が圧倒的に多いのではないかということです。隙間の時間とは、通勤時間であったり、仕事の合間の休憩時間、お昼、ちょっとした移動の時間に書き込むのが多い気がします。もちろん、企業で取り組んでいる場合は、就業時間内にも多くの書き込みがあります。ブログやwebもケータイからアップできる仕組みがありますが、やはり、きちんとした内容で作り上げて書くといったことが前提になっているので、なかなか簡単に手軽に書き込んでいくものとは種類が異なりますよね。

twitterは140文字しか入りません。ですから、文章は極力そぎ落とし、伝えたいこと、感じたことを表現する力が求められます。そうでなければ、情報の質が落ちるからです。また、ある特定の分野に通じる表現で短くすることもありますが、そうすると、フォローされている人でも、一部の人しか理解できない場合もありますので、できるだけ、わかりやすく表現し、専門用語をさけるのがいいと思います。

twitterを使って、まず、起きた現象は、近所の知り合いが爆発的に増加したということと、職業柄、twitterの使い方についての説明をしてほしいといった企業、個人からのリクエストが増えたということです。そして、リアルでの会合が増え、多方面、他業種の知り合いが増えたことでしょうか。そして、いままで、自分ひとりだけでは体験できなかったことまでも体験する機会に恵まれたということです。

そして、私だけではなく皆さん共通して口にする言葉は、生活の幅がちょっと広がったということです。この実際に何が起きたかという具体的なことはあとに詳しく説明しますが、実際の場面で起きたことから実際に説明してきます。それは、僕の書き込み「アバター見たいのですが」といった書き込みからスタートしました。3D映像が評判となり大ヒットした映画「アバター」は、立体視用のメガネをかけなければなりません。僕は、映画を見るときは、字幕を読むためにメガネが必要になります。そこで、疑問に思ったことは、メガネの上に立体視メガネをかけても問題ないかといったことに疑問を持っていました。そんなことをtwitterしたところ、あつというまに回答が寄せられました。

今回、僕は、twitterを情報発信ではなく、情報収集ツールとして使用しました。当事、僕をフォローしてくれた人は、約300人程度でした。そこで寄せられた情報をまとめると、映画館によってメガネの種類が違うこと。画面の明るさ、端っこの立体感、メガネの重さまで、詳しく教えてくれた人、こんな評価サイトがあると教えてくれた人、そして、その中から、もっとも自分と状況が似ている人の意見を参考に、僕は自分のメガネを使用せずに、日本語吹き替え版の3D映像を選択しました。他の上映方式は結局は体験できなかったのですが、僕の選択はよかったと思います。見る映画館と僕と似たような悩みをもっていた人のリアルな体験を短時間のうちに聞くことができ、行動を決定しました。こんな例は、タイムラインを見ていると時々出会います。もちろん、みなさんtwitterを使うくらいですから、まずは、ネットで調べてといった形がおおいのですが、それでもって時に使うと、数多くの回答が寄せられてることがわかります。まだ、実際に結果は出てはいませんが、迷い犬、迷い猫の情報を自分も発信したことはありますし、発信さ

れているのを見たことも何度かあります。自分が調べても判断できないことをリアルな回答で解決できることが、twitterを使っておきたことのひとつです。

では、実際に自分から情報を発信した場合に起きたことの例をあげます。通勤に利用している伝書は東海道線です。

台風が近づいたある日、駅についたら電車がとまっていました。このことを発信しました。「東海道線、上り、現在茅ヶ崎駅で停車中、再開の見込み不明」と書いたら、もうぞくぞくと情報が流れてきました。止まっている電車の中からの人、これから駅に入ろうとする人からは改札規制が始まったとか。リアルタイムに東海道線に関する情報がとびかいました。東海道は止まっているけど、相模線は動いているから、海老名か、厚木まで小田急でいきますとか。藤沢から小田急に乗り換えたとか。JRの公式アナウンスが、15分毎に更新ですから、生の情報のほうが圧倒的に早く、しかも、ほとんどが全員現場中継なわけです。これによって、自分がどう行動したら安全かといったことをいち早く把握することができ、無事、安全に、いらつくことなく、出勤することができたわけです。これから、家を出ようとした人からは、お礼の連絡が着たり、駅近くのカフェで相席になってお互い自己紹介しあったりとか。そして、この情報配信は、奇妙な連帯感をうみます。皆さん、会社につくと、お互いの無事をことばで交わしたのです。リアルな関係より、より親しみのある環境がその瞬間はできたのです。これは、コンサートなどのライブの一体感に似たものを感じました。

共通のミュージシャンを声援する観客といったところでしょうか。このtwitterのライブ感覚は、その後、スポーツ観戦に応用されました。日本シリーズ、冬季オリンピック、そしてサッカーのワールドカップです。

日本シリーズでは、一つの画面に、左側に巨人ファンのコメント、右側に日本ハムのファンのコメントが書き込まれる仕組みになっていました。これは、非常にもりあがりますよね。

冬季オリンピックは、浅田選手フリーの演技の時の書き込みは半端ではなかったです。応援のメッセージあり、解説者並のコメントありの状況。しかも、演技の時間が平日の昼間とあっては、テレビ観戦もままならない人達がおおかったわけですが、皆さん、ケータイ、iPhoneで観戦していたようです。もちろん、ワールドカップの書き込みも。岡田JAPANに声援と、予選リーグも3戦全敗といていた人達が、おかちゃんごめんなさい といった共通の書き込みで、岡田監督に謝罪していたりとか。もちろん、現地からの書き込みやスタジアムからの書きこみは、よりいっその臨場感とともに、一体感を生み出した瞬間に立ち会えました。おなじく、イトカワから7年間による宇宙の旅から戻ったハヤブサにも！

twitterが持つライブ感覚は、参加者に一体感を生み出す効果があるということがよくわかります。これは、ブログ、メール、webではなかなかできないことではないでしょうか。これは、twitter発信者がすべて現場中継のアナウンサーになれるからなのです。僕は海が大好きで、波乗りを楽しんでいます。ですから、海に行く、今日の波情報をいれることができるのです。ツールを使ってのライブ中継も可能なのが、twitterなのです。

5・twitterをビジネスツールとして使う

企業のトップが使う場合、大きくわけて、3種類の使い方が考えられます。完全に、外向けに情報発信していく方法、しかもトップとしての立場のまま。もうひとつは、プライベートな視点での使い方、これは、社内向けのアナウンスにもなります。そして、混在型。

企業トップとしてのコメントを積極的に発信していくタイプは、ソフトバンクの孫さんや宮崎県知事の東国原さんですね。ともかく、組織トップの顔としてのコメントが中心ですね。言い方を変えれば、強烈な営業活動になっていると思います。孫さんは、時折プライベートなつぶやきも書き込まれていますが、それらも、ファンをつくる効果を生んでいるように思えます。

孫さんのtwitter自己紹介から引用、twitterについて以下のように記載されています。

自己紹介

孫正義です。Twitterで多くの皆さんと時空を超えて、心の繋がりが広がっていく事に感動しています。初めてInternetに出会った時以来の感動です。世界が平和でより多くの人々が、幸福になれる事を心から願っています。

東国原知事は、こまめに返信もされています。持ち前のタレント性を発揮しての対応だと思えますが、これらもファンをつくる大きな要素になっているように思えます。

サイバーエージェントの藤田さんは、最初、偽者騒ぎがあったりしましたね。これは、ご本人が、成り済ましの人がいるようなので、本人登場となった経緯があります。楽天の三木谷さんも、早い時期からtwitterされていますね。タリーズの松田さんも。選挙に出馬のため更新はされていませんが。

と、ここまで見てくると、大手企業であったり、有名人的な人ばかりではないかということになりますよね。国内の企業トップが、全部が全部、有名人、著名人ではありませんが、それでも、twitterをやる必要があるのか、やったその効果はでるのかということですよ。これは、最初にも伝えましたが、やるかやらないかで、迷うのではなく、やってみることが必要だということです。

無名人でも、そのコンテンツ発信力により1万人の人からフォローされている人もいます。1000人だって凄いと思いませんか？ 1000人の人にメルマガを届けるといったことを考えてもその大変さはわかりますよね。また、現在、メルマガを取っていますか、そして、毎回、きっちり読んでいますか。メルマガのタイトルで見たり、見なかったりが多くはありませんか。

実際、個人営業されているかたで、twitterの講習会を受講したときは、50人ほどのフォローだったのが、今では約2000人近くからフォローされている方がいます。

まずは、発信すること。その反応を見ながら、営業的コメントにしたり、プライベートなコメントにしていくことも可能です。それが、ブログともっとも違うことですよね。企業ブログ、社長ブログとなると構えてしまい、更新が滞る、毎日読みに来る人もいないといった悪循環になります。たとえば、ブログを持っているのであれば、twitterで、更新情報とリンクをつける方法もありますよね。

たとえば、こんな方法はどうでしょうか。社員全員にtwitterアカウントをとらせて、社長の毎日のコメントをいれていく。自分の考えであったり、疑問であったり、聞いてみたいこと、プライベートで、こんな映画を見た、本を読んだなんてこともです。その中から、反応があるのではないのでしょうか。社長と同じ本読んだとか、社長の疑問は、こんなことではないですかといった

風に。そんな、会社の業務にかかわること、ネット上に書けないよって思いますよね。誰もそんなことはよく理解しているから、ダイレクトメールで、あとで時間いただければ、説明しにいきます。とかできますよね？

いくら、メルアドをしても、若手が、トップに意見のメールを出すのはとても勇気のいることです。その中間層を飛ばすわけですから。ですが、こんなアイデア持っていますといった簡単なアナウンスをtwitterでしたり、ダイレクトメールですると、いっきに垣根がさがります。それが、メールとtwitterの大きな違いです。

出先から、至急データが必要になったなんて場合も、twitterで、連絡して、あとはケータイで連絡とってなんてできますよね。メールだとパソコン開いて、複数のメアド入れて、送信なんて手間が、ケータイやスマートフォンから、社員に連絡、至急、ケータイに連絡を。といれておけば、社内でtwitterの画面をみている人から連絡がくるわけです。

営業的に使うことももちろん重要です。Twitterアカウントを名刺に入れることも必要でしょう。

それと、やはり、アカウントは本名で取ることが大事です。わかりにくい名前、ハンドルネームでは、信頼性にかけてしまいます。もちろん写真もご本人のものがよいでしょう。ここがポイントです。やはり、信頼性のツールなので、企業名、アカウント名、写真は、普通に出すほうが、フォローされた場合、する場合信頼度がたかまりますね。

インターネットに、本名、連絡先をいれるのは危険といった考え方を考える時代になってきたと思います。実際、自分はある程度の制限はかけていますが、本名やケータイ、連絡先などオープンにしていますが、悪戯電話、悪意あるメールなどは受け取ったことはありません。

Twitterは、一度に大勢の人に伝えることもできるし、個別対応もできるツールです。DM機能。ダイレクトメールです。しかし、これは、お互いがフォローしていないと送受信はできない仕組みになっています。

企業のトップの方ですと、さまざまな人と名刺交換されると思います。交流会などでは、一度に大勢の方と名刺交換しますよね。その人達のメルアドを、ひとつひとつ入れて連絡をとると多大な時間消費になりますが、このときに、お互いtwitterのアカウントもっていれば、ものすごく手軽に連絡とることができるわけです。

名刺交換時に、twitterのアカウントを知らせて、フォローしてもらえば、すぐに連絡が可能になりますよね。名刺交換して、一度だけ、メールで挨拶しておしまいですよね。きっとその人達は、それまでの縁だったのかなって僕は考えています。そのために、メルアドを登録するための時間、もったいないですよ。お互いtwitterしていれば、話は早いし、その人のコメントを読めばどんなことをしているのかとか、どんな雰囲気なのかといったこと知ることができることは、前にも書きました。企業のページであったりすると、企業理念などになってしまい、本当はどんな人なのかってことまでなかなかわかりにくいけれど、twitterはその点、生の声がでているので、お互いを理解するのにとても便利なツールになるって思っています。今、ここまで読んでみて、まだ、アカウントを持っていない、持っているけど使い方がわからないとなりますか？

意外と知らなかった面とか知るとそこから話題が展開してなんてことは、よくありますが、そのきっかけとしてもtwitterは役立つことがあります。実は、釣りが趣味なんですとかね。

情報発信するときのコツとして、地名、駅名などを入れるとぐっと具体的になって、より親近感を生みます。たとえば、いつも休日は釣りをしています→休日は釣りをしています。海釣

りで、場所は大磯です。といった具合にですね。何かのイベントを開きたいときは、電子書籍に興味ある方集まりませんか→iPad入手しましたので、電子書籍について語る会を〇月に開催しますので、参加希望者はDMください。

といった具合にです。発信する情報に価値をいかにつけてコメントするかが鍵になります。

この章の始めに、使い方は3通り考えられとしました。まずは、一番書込みしやすい、発信しやすいことから始めるのがいいのですが、文体やらなにやら気にしてしまうとなかなか書き込みできないと思います。そんなときは、まずは、アカウントを取る、そして、検索機能を使って、自分の興味ある書き込みをどんどん検索していくといった情報収集機能を使いこなすことでもいいのかもしれませんが。自社について、自社業務、業界についてなどの検索、もちろん他社の動向、ユーザーの視点など、どんどんサーチしていく方法もありですね。また、twitterを使ったあらたなサービスについて知ることも大事なことです。

まずは、アカウントをとって、twitterの世界に足を踏み入れることが必要なことわかっていただけましたか。5分あれば登録できますよ。

6・twitterの問題と課題

まず、最初に考えられるのは、なり済ましですよ。最近の有名ななり済ましは、菅直人総理大臣のなり済ましですよ。これは、公認アカウントなどで、本人確認ができますので解決できます。ただし、普通の我々のなり済ましをするということ、あまり現実的ではありません。有名人になり済まして、ネット上を荒らすといったこともあまり考えられないです。まったくないとはい切れませんが。

また、bot機能をつかった有名人発言があります。これは、本人の発言ではなく、あるプログラムによって作り出された自動発言です。有名なのは、元テニスプレイヤーの松岡修三botです。いかにも松岡修三さんが発言しそうな言葉を自動的に発言しています。twitterがスタートしたころ、本人が発言してると思い、返事をしてしまったなんて方もいたようです。

それよりも問題なのは、いかにもといったリアルな情報のようでの誤報です。ハリウッドのタレント〇〇さんが、事故でなくなったといった類のものです。このようなものは、直接、私達の生活を脅かすとか、なんらかの危険をはらんでいるものではないので、問題はないのですが。一度、こんなことがありました。「大阪で、障害をもった兄弟が行方不明です。着ているものは、」最後に、皆さん、リツイートお願いします!と。でも、ちょっと待てよ、これって、本当かなといったものが僕のなかにありました。もし、そうであれば、既に、ニュース報道とかされているのではないかと。それで、検索しましたがいっこうにそのようなことはありませんでしたので、僕は、転載しませんでした。しばらくして、この内容は、嘘であり、最初の発信者のアカウントが消されていたと、そして、謝罪のtwitterがありました。これが、情報過多社会の一面ですよ。twitterだけではなく、メールや掲示板、その他のSNSにおいても、同様話があります。ただ、twitterは、大勢に短時間に広めることのできるツールですから、この、情報の真贋を見抜く力が必要になります。

情報の拡散が、twitterは他のものよりも強い傾向にあります。たとえば、自分をフォローしてくれる人が、1000人いたとします。自分の情報を面白いと思った人が、10人転載してくれたとします。その10にも、それぞれ1000人フォローされていると、10,000人の人が見る可能性があるわけです。これを情報拡散と呼んでいます。人助けと思って転載したことが、次々と連鎖反応を起こす、どんどん広がっていってしまう。それが間違いとわかったときも、同じように記載するしかありませんが、信用度が低くなり、ツールとしてもtwitterは使えないものといったことになりがちです。

ですから、twitterを使うときに、その情報は確実なものか、自分が責任もって発信できることかといったことをチェックして、配信することが大切です。それは、自分を守るためでもあるわけです。

ニュースサイトからの転送などであれば、大きな問題にはなりません、よかれと思って流したことによって、自分も、自分を信じてくれた人も傷ついてしまいますよね。

いまのところ、twitterで世紀の大誤報やトラブルはおきてはいないようです。それよりも、ニューヨークで、飛行機が川に着水した事故、ハイチの地震とその現場の様子や救援物資の状況などがtwitterを通じて、情報配信され、そのことから、救援、募金などが集まったといったことに注目して欲しいと思います。

10万人、20万人とフォローされていると、それだけで大きな発信力につながります。オバマ大統領もtwitterを上手につかいましたよね。これからは、個人だけではなく、企業、組織でもtwitterを使う場面が増えてきます。たとえば、学校。生徒全員にメールアカウント発行して、管理して、なにかあれば、メールで配信してとしても、生徒はメールはケータイで読みますよね。それでは、個人、個人のメールアカウントを管理でききるかというと、メールアドレス変更したり、ドメイン設定していなかったりで、機能するまでに時間がかかり、下手すれば、卒業までによやく設定できたなんてことになりかねませんが、twitterのアカウントを取らせて、フォローさせておけば、とりあえず全員一斉の連絡はすんでしまうわけです。生徒の保護者とも簡単に連絡がつくのです。一人一人に、個人のケータイで対応しては、それこそ時間の無駄です。

同じく企業でもそうです。求人活動において、学生にアカウントをとらせ、フォローして、連絡をとっていくと、いきなり始めての面接よりももっと具体的にお互いの理解をたかめることができるのです。

既に、twitterのアカウントのない学生は、採用しないといった企業も出始めています。常に、新しいツールには、いい面、悪い面があります。電子メールにしてもそうですよね。便利な反面、トラブルやウィルスの問題を含んでいますが、便利なツールとして定着しましたよね。

Twitterも同様です。最初に興味をもった人達が、今は使い始めています。いくつかの問題も含んでいますが、それは、自然淘汰されるものではないでしょうか。また、新たなツールができあがり、より使いやすいものになると予測しています。

Twitter自体はとてもシンプルな画面で、大きな変化はないでしょうが、twitterを取り囲むさまざまなツールが、日々開発されています。それらとの連携が大きくビジネスを変える時期がきています。

たとえば、twitter分析ツールなどもできていますし、そのことをビジネスにつなげる企業もできています。iPhoneアプリには、有料、無料たくさんのクライアントがあり、発言のしやすさを助長させています。PC版のHoot Suiteというクライアントは、最近、日本語化されました。そこには、分析機能、URL機能、画像アップ機能、bot機能といった様々な便利ツールが搭載されています。

一人の眩きが大きなムーブメントをおこしたこともありすま。「どろりっちなう」 グリコから発売されていた飲み物ドロリッチを飲んでいるといったことを眩き、それが商品売り上げに貢献したといったことです。

僕の使用感からですが、1000人のフォローされていてたとします。その中で、書き込みに熱心な人は、10%前後、さらに、何らかの反応してくれる人は、5%前後といったところが、今のところの使用感です。ですから、大きなムーブメントを起こすには、やはり、単独で10,000人以上のフォローが必要になってくるかとおもいます。しかし、twitterはコミュニケーションツールです。そんなに大きなムーブメントでなくてよいのであれば、すぐにでも活動はできます。実際に僕が体験している企画の中には、5人くらいのものから100人くらいのものまで様々な活動が行われています。

たとえば、おいしいラーメン食べに行きましょうとか、餃子食べましょうといったものから、僕は参加できませんでしたが、地元での地引網には、なんと100人近くの人が集まりました。それがほとんど始めて顔をあわせる人達だったわけです。数名の人達が幹事となり、twitterで告知をして実施。幹事の人達ととても大変だったと思いますが、いままで、出会うことのなかった人達が、一つのこと目的に、いろいろなところから集まって、知り合いが増えていく。こんなツ

ールっていままであったでしょうか。海岸清掃などのアナウンスももちろんきます。

僕があることばをtwitterしたとたん賛同者があらわれて実現したのがあります。「最近、読書会ってのがあるけど、茅ヶ崎でやっていますか」と、書き込みしたとたん、「読書会って何」から、「やりましょうっ」となって、あっというまに実現しました。しかも、市民団体の登録までしてくれた方がいて、図書館の会議室などを無料で借りて実施しました。

2度の開催で、約40名ほどの参加者がありました。皆がそれぞれ気に入っている本を伝えたり、テーマにそって意見交換したりとなかなかの盛況です。

もう一つは、モーターパラグライダー体験です。背中に大きな扇風機のようなものを背負って空を飛ぶのです。

このモーターパラグライダーを体験したいといった人からの書込みがありました。何箇所かスクールらしきものがあり、そこでやろうかとなったのですが、Twitterの知り合いからインストラクターを知っているとの紹介があり、先日、飛んできました。風が強く、上空100メートルくらいしかあがれませんでした。Twitterをやっていなければ、できなかったというか、自分では踏ん切りつかなかったと思います。もちろん、こういったイベントに参加するには、自己責任が原則です。なんらかの事故があったときに、中心になって動いてくれた人に迷惑をかけないというのが原則ですよね。

企業のトップであるならば、まずは、自分のアカウントをとって活動してみる。そこから、新たなアイデアがでてくるし、自分ではなく、社員に広報やQ&Aといったことで利用させてもいいのではないのでしょうか。

7・おしまいに参考サイト案内とメッセージ

この文章は、今年の春にある企業から依頼を受けて講師をつとめた時の原稿に、最近の出来事も加えて加筆修正したものです。

このツールを使うのが始めてだったので、読みにくい面もあるかと思いますが、なにかの参考にしていただけると嬉しいです。

僕の名前は、村杉若穂 twitterアカウントは@wakahoです。本文では、写真は顔写真にっていますが、今は、海と自転車の写真になっています。似顔絵などにもしたことはありますが。最初、こんなことで、人前で話ができるとは思っていなかったなので、自分の好きな海と自転車の写真にしまいました。そうしたらそのイメージが強くなってしまったようです。画像を変えて、書き込みしてもスルーされてしまったことがあります。ですが、近々、顔写真にしようと思います。

Twitterを始めて変わったことは、とにかく友達が増えた。いままで、友達がいなかったわけではありませんが、それはリアルな中での通じ合った仲間であったわけですが、まずは、バーチャル空間からの始まりで、凄く気があうと、年齢、立場など関係なく語りあうことのできる仲間が増えました。

ですから、地元のtwitter仲間、まだあったことはないけど、よくやりとりしている仲間にはとても感謝しています。

今後は、twitterを使ってもっともっと便利だったり、愉しく、そしてビジネスに応用できることを考えていきたいと思っています。僕についての詳細な履歴は、こちらにアップしてあります。

こちらには、顔写真もアップしています。

<http://www.sbibusines.com/pub/882531288>

それでは、ここからは、本文で参照にしたサイトやアカウントなどを掲載します。

Twitterを使っのライブ映像中継もできる時代になっています。自分の伝えたいことを文字とライブ映像で配信する時代なんですね。環境は揃っています。あとはそれをどのように利用するかですね。

- ・ まず アカウントは作るには [ここです http://twitter.com/](http://twitter.com/)
- ・ ソフトバンク 孫さん <http://twitter.com/masason>
- ・ 楽天 三木谷さん <http://twitter.com/hmikitani>
- ・ 朝日新聞 <http://twitter.com/asahi>
- ・ 毎日新聞 <http://twitter.com/mainichijpedit>
- ・ 著名人一覧 <http://usy.jp/twitter/index.php?Twitter>にいる著名人
- ・ 企業公式アカウント <http://usy.jp/twitter/index.php?企業公式アカウント>
- ・ ブラウザからの投稿 <http://hootsuite.com/>
- ・ JR東日本関東運行情報 <http://twitter.com/jreastinfo>
- ・ ライブ中継をする <http://www.ustream.tv/>

- ・ iPhoneから中継できるアプリケーション

<http://buzzapp.jp/apps/352756035/ツイートキャスティング・ライブ%20-%20TwitCasting%20Live/>

まだまだ、面白い方、企業がtwitterしています。どんどん検索してみてください。
さあ、今すぐ、twitterの世界に入ってみませんか？

はじめに

かつては、情報化社会を目指していた国が、今は、情報過多時代になっています。情報は、少ないよりも多いほうがよいわけですが、多すぎると、何から選んでいいのかわからないといった世界になってきます。そうなると、手軽にランキングから選択したり、情報誌から選んでしまったり、ヒットしているからという理由で、本当に自分が必要としているもの、自分にあったものを選ぶといったことをしないで動かされてしまう。

また、本当のことなのか、表面的なことなのか、悪意あるものなのかといったことを見抜く力をどんどんそがれていってしまう。

twitterは、インターネットの中の一つのツールです。しかし、そのツールが、電子メールが普及したように、今、広がりを見せています。メールは、原則、一人対一人のツールでしたが、twitterは、一人が多数に対して発信できるものであり、また、一人対一人のやりとりもできるツールです。

ビジネスにおいて、このツールを無視することは、もはやできない状態になっています。もし、あなたが、組織のリーダーであるのならば、このツールを使わないでいることは、大きな損失になると考えて間違いはありません。もし、自分が使いこなせないのであれば、それは、それで、判断して、自分の部下に使わせるといったことを選べばいいのです。

ですが、twitterが、なんなのかだけは、リーダーとして知っておく必要があります。

この本を読むことによって、ビジネスとtwitterの関係を把握して、明日からのビジネスに活かしてもらえれば幸いです。